有子曰く、礼の用は、和を貴しと為す。先王の道、斯を美と為す。小大之に由れば、行われざる所有り。和を知りて和すれども、礼を以て之を節せざれば、亦行わるべからざるなり。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「礼儀正しさのはたらきは、意見や性格、得意不得意が様々に違ったものどうしが互いに尊重しあって、違いのあるままで平和な状態を生み出すということが素晴らしい。昔から偉大な王は、そうした礼の働きを美しいものと見てきた。小さなことでも大きなことでも、礼によって平和を実現できるものであるはずだが、できない場合もある。平和を第一と思ってみんなが和やかに仲良くしても、無理やり同じ一つの意見や考え方に従わせたり、同じ能力を持たなければならないと強制されては、そこからはみ出るものが、正しく認められないことになるので、それはほんとうの平和ではない。礼を以て、どのような人にも敬うべき点があるのを見抜き、尊重し、感謝する、そのようにわきまえなければ、ほんとうの平和は実現できない。」

金子みすゞの詩「私と小鳥と鈴と」を思い出しますね。

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。